

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 全体会合

2018年6月12日

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

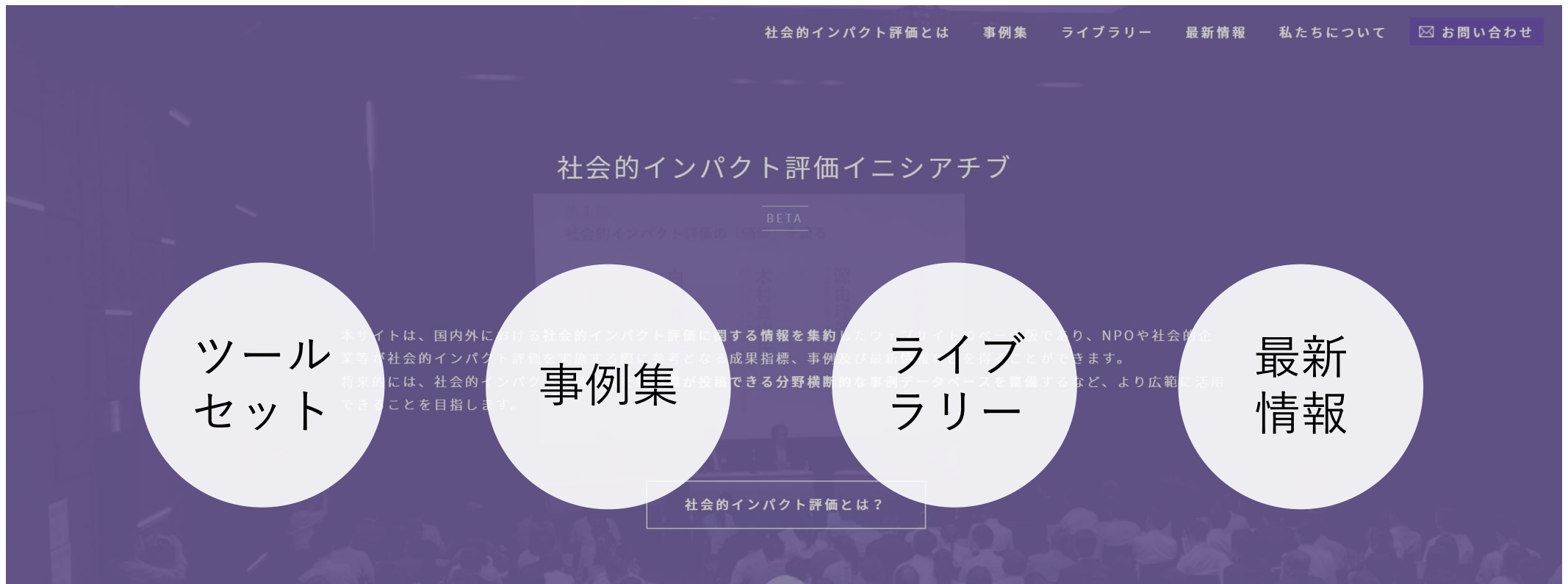
～12の目標と38のアクション～

日本における社会的インパクト評価推進の現状について ーロードマップ実現に向けたアクションプランー

社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI）設立（2016年6月）

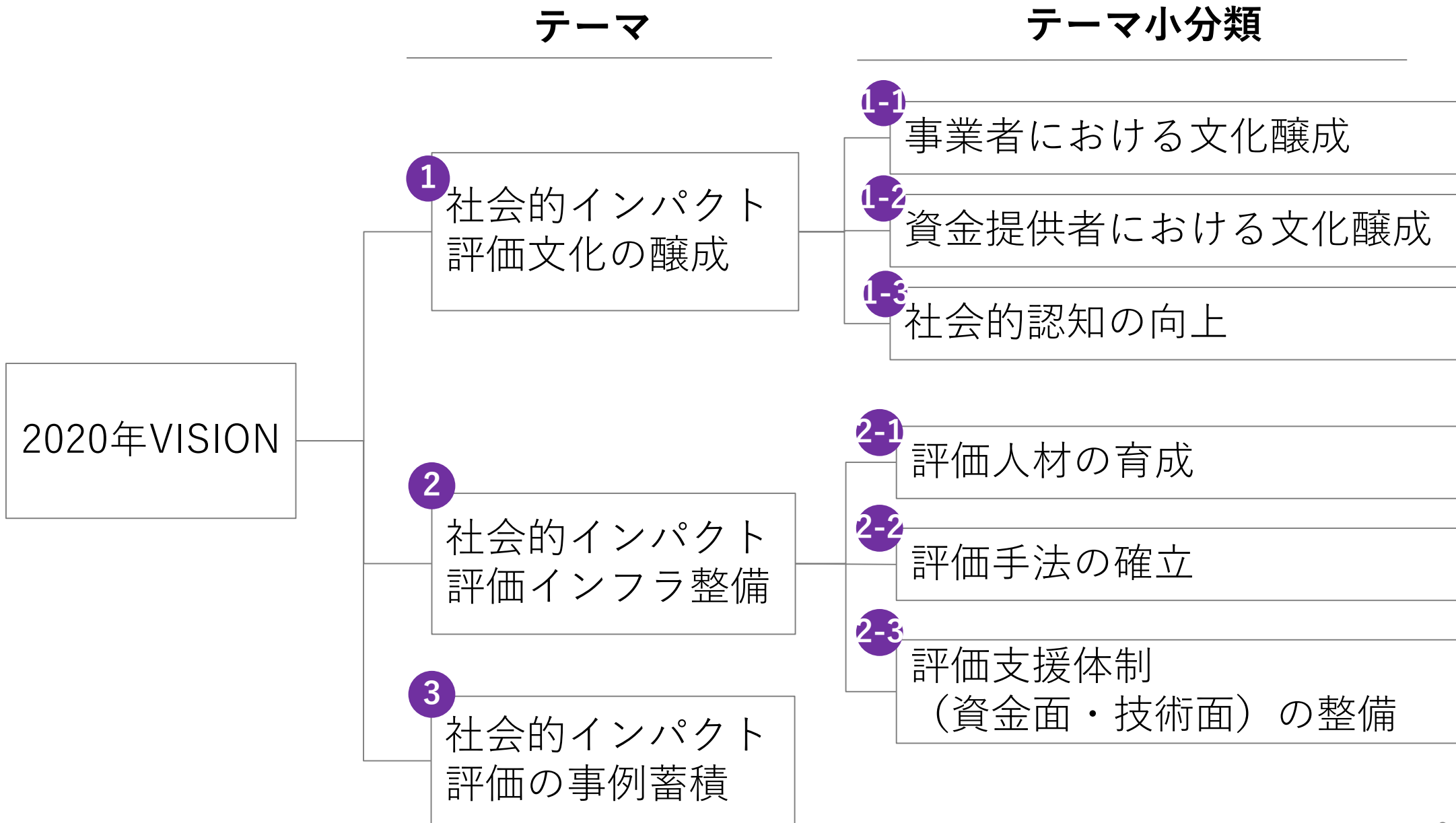
非営利または営利の民間事業者、シンクタンク、中間支援組織、資金提供者、研究者、行政などが連携して日本に「社会的インパクト評価」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブ。

（2018年6月現在 151団体）



2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。



ロードマップ実現に向けたアクションプラン

2017年度は、ロードマップ実現に向けて8つのワーキング・グループを新たに設置し、それぞれのアクションプランを作成、実行。

No	WG名	対象テーマ (大分類)	対象テーマ (小分類)	幹事団体
1	社会的インパクト 志向原則作成	文化醸成	事業者、資金提供者	SIMI事務局
2	資金提供者 ネットワーク	文化醸成 インフラ整備	資金提供者 評価支援体制の整備	資金提供者ネットワー ク
3	事業者ネットワーク *未設置	文化醸成 インフラ整備	事業者 評価支援体制の整備 (ピアネットワーク)	事業者ネットワーク
4	社会的認知	文化醸成	社会的認知	SIMI事務局
5	人材育成	インフラ整備	評価人材育成	日本評価学会、 日本NPOセンターなど
6	ガイドライン 作成	インフラ整備	評価手法の確立	SIMI事務局
7	アウトカム・指標作 成	インフラ整備	評価手法の確立	GSGNAB
8	事業の蓄積・活用	事例の蓄積・活用		ケイスリー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 社会的インパクト志向原則作成WG

1. ロードマップ（社会的インパクト評価文化醸成）



*1「インパクトサイクル」：計画-実行-測定-レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなど
の便益が生み出される事業運営。

*2「インパクト志向原則」：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

*3：例えば、ホームページ上での賛同を募り、その団体数により目標を達成したかを計ることができる

*4：例えば、認知度調査等において社会的インパクト評価の認知について尋ねる項目を設けることにより、認知度の程度を計ることができる。

2. インパクト志向原則作成WGが2017年度目標達成状況と2018年度目標

2017年度目標

- ・ 「社会的インパクト志向原則」の作成

【社会的インパクト志向原則ワーキンググループメンバー（順不同）】

特定非営利活動法人SROIネットワーク、一般社団法人コペルニク・ジャパン、公益財団法人笹川平和財団、特定非営利活動法人CRファクトリー、株式会社ソーシャルインパクト・リサーチ、株式会社日本総合研究所、特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会、株式会社電通、木村篤信、渡邊泰之

達成状況

- ・ 「社会的インパクト志向原則」の完成

2018年度目標

- ・ 「社会的インパクト志向原則」の普及啓発活動を他WGと連携して実施 *ワーキングは一旦解散

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ アウトカム・指標作成WG（GSGNAB）

1. ロードマップ（社会的インパクト評価インフラ整備）



GSG社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会の取組み： 社会的インパクト評価ツールセット



何を測るか



何で測るか



どうデータを
集めるか

<これまでの実績と2018年度計画>

<p>～2016年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 教育、就労支援、地域・まちづくり、文化芸術、環境教育の5分野でVer.1.0～2.0を作成 • 社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアルVer.2.0作成
<p>2017年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護予防、防災、子育て支援の3分野で開発中（6月末発表）
<p>2018年度</p>	<p>* 公募でテーマや開発協力者を募集！（4分野開発） （候補：ヘルスケア（生活習慣病）、メンタルヘルス、障がい者福祉関連、地域共生（ソーシャルキャピタル）、アドボカシー、森林・海洋保全など）</p>

社会的インパクト評価ツールセット掲載先

<http://impactinvestment.jp/resource/>

<http://www.impactmeasurement.jp/about/guidance.html>

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

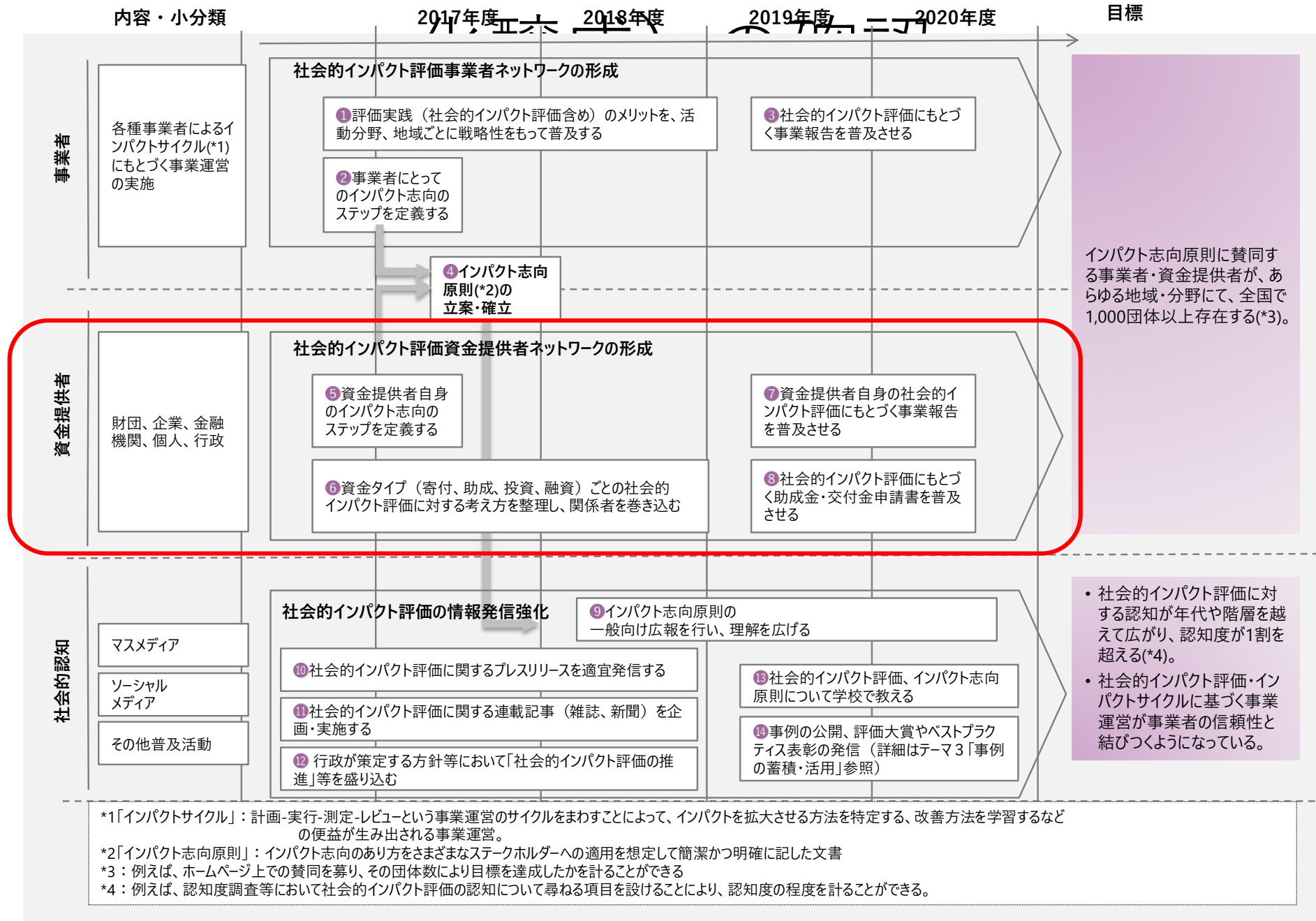
2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 資金提供者ワーキンググループ

2018/6/12

ロードマップ（社会的インパクト評価文



資金提供者WGの活動内容

目指すこと

- 資金提供者にとっての「インパクト志向」のあり方の定義
- 「インパクト志向」に向けたアクションの検討・実施

やること

1. WGメンバーによる事例共有会の定期的な実施

- 各資金提供者における審査/デューデリジェンス、事業管理、对外報告における社会的インパクト評価の実践事例を共有

2. 資金提供者にとってのインパクト志向のあり方の検討

- 上記事例共有会でのインプットを基に、資金提供者にとってのインパクト志向のあり方を検討
- 「インパクト志向原則」策定への資金提供者WGとしての考えを提示するとともに、各組織がアクションを実施

事例共有およびインパクト志向検討の切り口

<p>組織/部署の 戦略レベル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 組織/部署自身のロジックモデル/セオリー・オブ・チェンジは作成している？ 個々の支援案件は組織/部署の戦略とどう紐付けられている？ 組織としての対外的なレポートはどのように行われている？ 			
<p>個々の 支援案件 レベル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 審査/デューデリではどのような申請書類、審査書類を使っている？ 審査/デューデリ時にロジックモデルを求めている？ そもそもロジックモデルは必要？ 課題は？ 	<ul style="list-style-type: none"> 支援期間中の、社会的インパクトにかかるモニタリングはどのように実施？ 定量的なKPIは設定している？ 課題は？ 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的なアウトカムについて、支援終了後の評価は行っている？ そもそも必要？ 課題は？ 	<ul style="list-style-type: none"> 支援先からどのような項目でレポートも求めている？ その内容は、支援継続の判断等の意思決定へどう活用されている？ その内容は、組織としての対外的なレポートへどう反映される？
	<p>審査/ デューデリ</p>	<p>支援期間中の モニタリング</p>	<p>支援終了時/ 事後の評価</p>	<p>意思決定への活用/ レポート</p>

事例共有内容

1. 前提情報

- 支援内容、支援先の属性（件数、規模、分野の傾向等）
- 支援先への評価のキャパシティ・ビルディングの実施有無

2. 支援プロセスと評価

審査/ デューデリ

- 審査/デューデリではどのような社会的インパクトの観点ではどのような審査項目を設けている？ロジックモデル/変化の理論を確認している？
- 課題は？

支援期間中の モニタリング

- 支援期間中の、社会的インパクトにかかるモニタリングはどのように実施？定量的なKPIは設定している？
- 課題は？

支援終了時/ 事後の評価

- 長期的なアウトカムについて、支援終了後の評価は行っている？
- 課題は？

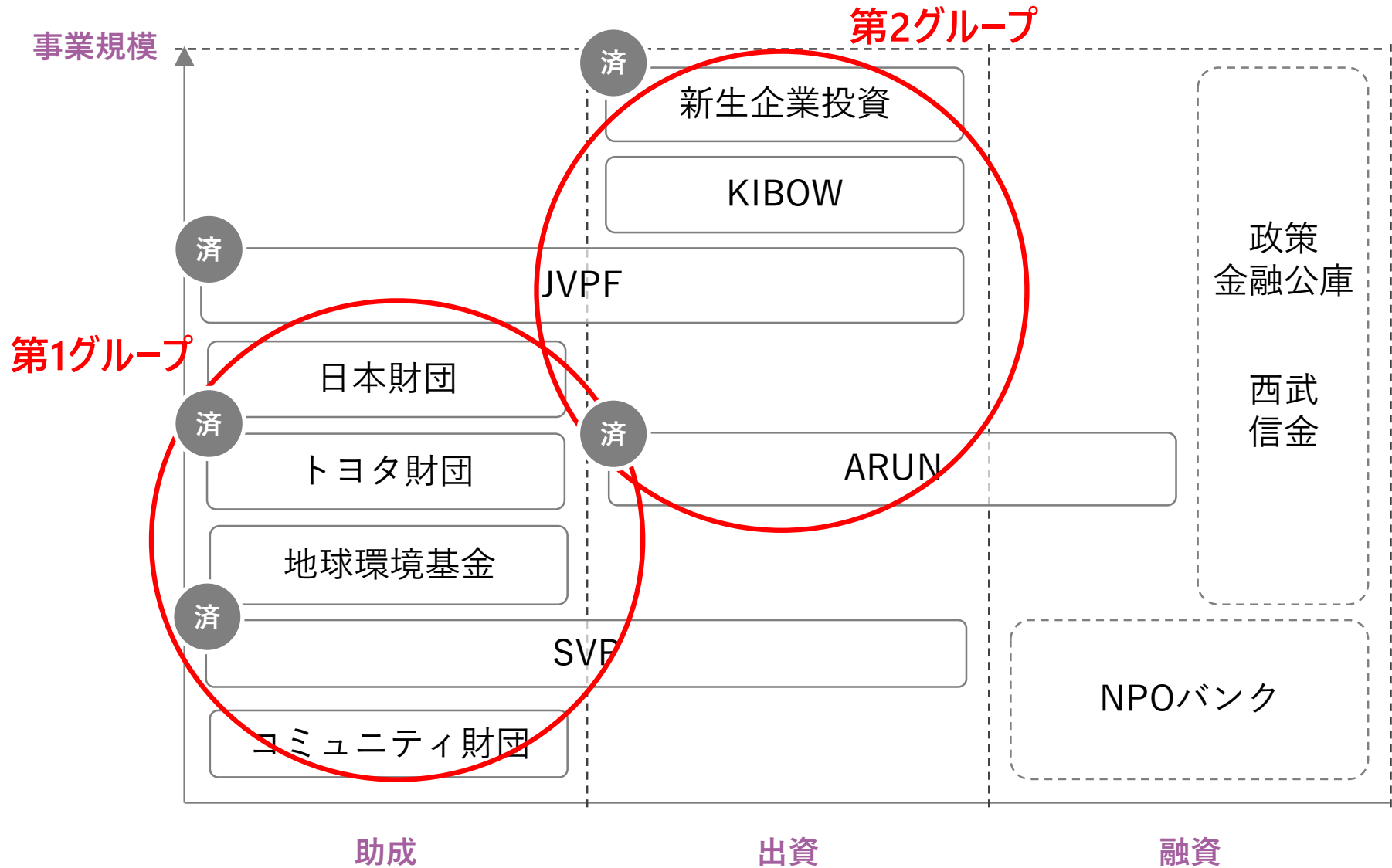
評価結果の 活用

- 支援先からどのような項目でレポートも求めている？
- その内容は、支援継続の判断等の意思決定へどう活用されている？
- その内容は、組織としての対外的なレポートへどう反映される？

まとめ

- 自団体にとって、「インパクト志向」とは？

事例共有候補



アウトプット：事例集

助成財団における事例

公益財団法人 トヨタ財団（国内助成プログラム）



Point

- ・ 目的は支援先との合意形成。コミュニケーション・ツールとしてのロジックモデルの活用。
- ・ 定量的な情報だけに依存しない。定性的な情報「変化のエピソード」の活用。

1. 基本情報

助成総額	1 億円
助成分野	A.しらべる助成 地域課題の発掘やその解決のために必要な調査、戦略立案、パイロット事業の実施などを目的としたプロジェクトへの助成 B.そだてる助成 地域課題解決に向けた事業の立ち上げ、実施、拡大ならびにそうした事業の担い手となる人材を育てることを目的としたプロジェクトへの助成
助成額	実施内容と申請額に基づき、選考委員会で決定された金額 A.しらべる助成：上限 100 万円/件（2016 年度実績平均 98 万円） B.そだてる助成：上限なし（過去 3 年間の実績平均 519 万円/2 年）
助成期間	A.しらべる助成：2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日（最長 1 年間） B.そだてる助成：2018 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで（2 年間）
対象組織	運営の中心となる組織の法人格の有無・種類は不同

※2018 年度国内助成プログラム公募内容

公益財団法人 トヨタ財団の国内助成プログラムは、「持続可能で人々が幸せを実感できる（地域）コミュニティが各地で築かれること」を目的としたプログラムで、「地域課題の解決や価値創造を目的とした仕事づくりや担い手の育成ならびにその仕組みづくりを目指す取り組み」を支援対象としている。

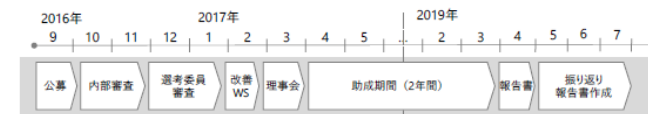
「そだてる助成」に加えて、2016 年度からは地域課題の発掘や事業の実施に向けた調査および事業戦略の立案に対して助成を行う「しらべる助成」を開始した。2016 年度は、「しらべる助成」が 10 件、「そだてる助成」は 18 件を採択し、これらの事業を国内助成担当者 3 名で担当している。

2. 審査/デューデリジェンス

国内助成プログラムのスケジュールは下図のとおり。

6

図表 4：国内助成プログラムのスケジュール

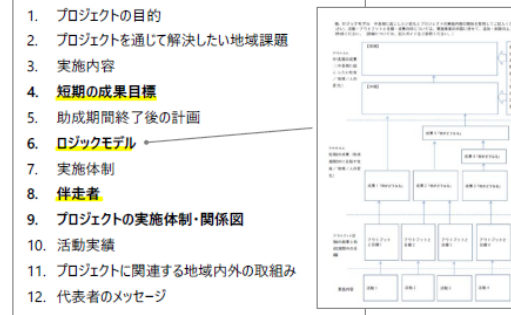


出所：トヨタ財団作成資料より

国内助成プログラムへは、毎年約 250 件の応募があるが、内部審査で 50 件ほどまでに絞り込み、さらに選考委員審査で 10 件ほどに絞り込む。内部審査は、国内助成担当者 3 名が審査を実施し、プログラムの趣旨との合致度、ロジックモデル、実現可能性と持続可能性、といった評価項目をもとに審査を実施している。

申請時に提出してもらう企画書の構成は以下のとおり。

図表 5：企画書の項目



出所：トヨタ財団作成資料より

トヨタ財団の国内助成プログラムで特徴的なのが、申請時にロジックモデルの記載を求めている点だ。ロジックモデルは 2016 年度から導入し、ツリー型のロジックモデルを企画書に記載してもらっている。ロジックモデルは、これを基に事業を管理するというよりも、事業の内容をよりよく理解するためのコミュニケーション・ツールとして位置づけているという。さらに、選考委員会後には、外部講師を招き、内定者向けのロジックモデルをブラッシュアップする改善ワークショップも実施している。

短期の成果目標は、定量的な指標を 3 つほど提示してもらう。後述するが、これらの指標については 1 年終了

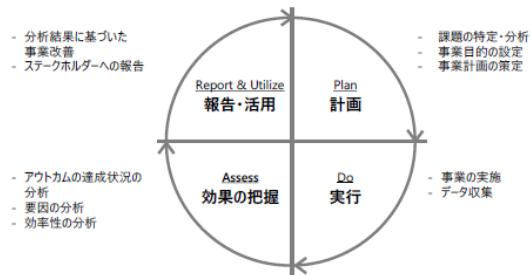
7

アウトプット：事例集

資金提供者における社会的インパクト・マネジメントの枠組み

社会的インパクト評価イニシアチブが作成した社会的インパクト・マネジメント・フレームワークでは、社会的インパクト・マネジメントは次のようなサイクルに沿って事業を運営することとされています。

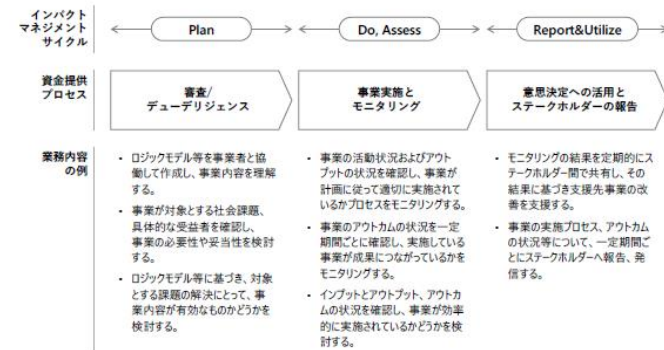
図表 2：社会的インパクト・マネジメントにおける事業のマネジメント・サイクル



出所：社会的インパクト評価イニシアチブ（2018）「社会的インパクト・マネジメント・フレームワーク」を基に作成。

このような社会的インパクト・マネジメント・サイクルを助成事業や投資事業といった資金提供事業に導入する場合、審査/デューデリジェンス、事業実施とモニタリング、意思決定への活用とステークホルダーへの報告、という資金提供プロセスにおいて、下図に示したような業務を行うことになると考えられます。なお、下図に示した業務内容の例は、資金提供者ワーキンググループでの事例共有にて共有された事例から抽出したものです。

図表 3：インパクト・マネジメント・サイクルと資金提供プロセス



本事例集では、資金提供者による社会的インパクト・マネジメントの取組みをより具体的に理解してもらうため、次頁以降で3つの事例を紹介します。それぞれの事例は、資金の出し方（助成なのか、投資なのか、等）、支援金額、支援件数などが異なる事例です。社会的インパクト・マネジメントの取組みは、取り組む団体の属性によって異なるものと思われます。これから紹介する事例は資金提供者による社会的インパクト・マネジメントの「答え」ではありません。読者の方の組織の属性に合った社会的インパクト・マネジメントの在り方を検討する際、紹介する事例を参考にいただければ幸いです。

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

SIMI人材育成WG 2017年度報告書

2018年6月12日

SIMI人材育成WG

1. 人材育成WGの目標

2020年目標

全国で**1,000名**が**基礎研修**（＝基本的な考え方を理解する）を修了し、**100名**が**実践研修**を修了。

社会的インパクト評価に係る**専門講座**が開設。

2017年度目標

1. 人材育成に必要な研修が明確になっている状態
2. 既存の研修に関する情報の整理・公開

【人材育成の目的】

「志向原則」を実践し社会的インパクトを最大化する上で、事業を推進する人材を育成とすることを目的とした指針とする。ただし、ひとりの人材がすべてのパフォーマンスを満たすというよりも、インパクト・マネジメントに関わる複数の人材が相互補完することを志向するものとする。

ひとつの研修によるインプットで完結するものではなく、複数の研修、経験、書籍、人材間の相互フィードバックといった様々な機会によって自らの学びを醸成し、常にアップデートし続ける姿勢が求められるものである。

前提として、社会的インパクト志向原則の理解・共通認識化を不可欠であるものとする。

※「事業者がインパクトを現場で生み出すために必要なプロセスを回す」ということを最終目的とするため、事業者の人材育成を図る。
支援者はこの知識を踏まえて、事業者をサポートする役割を担う。

2.社会的インパクト・マネジメントのための人材育成指針

ステージ	構成要素	手法・ツール
計画 (Plan)	事前調査 構造化 関係者と協議 事業づくり 評価設計など	関係者分析 ToC 円卓会議 ロジックモデル、PDM など
実行 (Do)	活動の実行 モニタリング プロセス管理	活動計画表 (PO) WBS など
分析 (Assess)	データ収集 アウトカム評価 事業振り返り	ヒアリング調査 アンケート調査 統計分析 など
報告・活動 (Report& Utilize)	報告・改善プラン 情報発信 スケールアウト アドボカシー計画	評価報告書 HP、SNS など

共通スキル

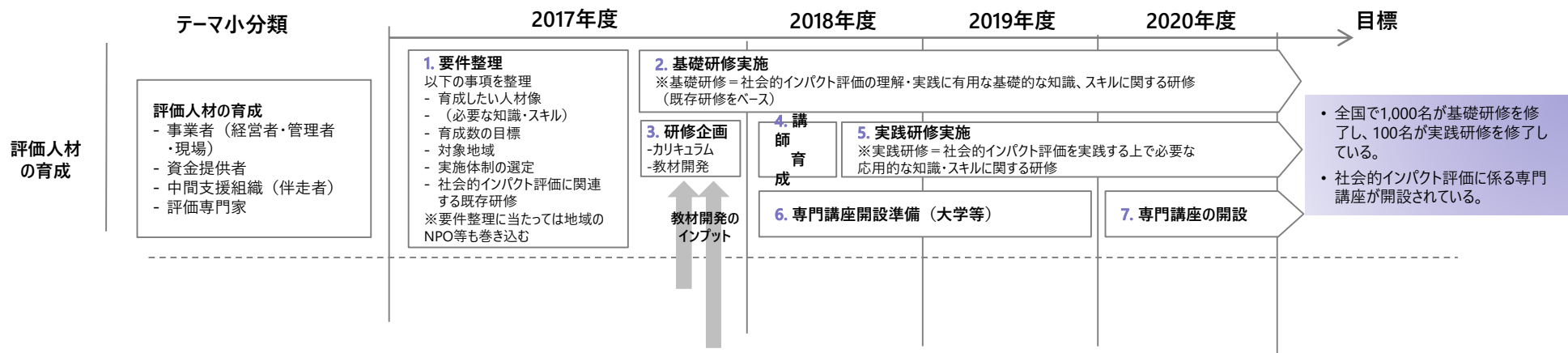
シ デ コ フ
ス ザ ミ ア
テ イ ユ シ
ム ン ニ リ
思 思 ケ テ
考 考 ー シ
な ヨ シ
ど ャ ャ

3.社会的インパクト評価に関する研修等

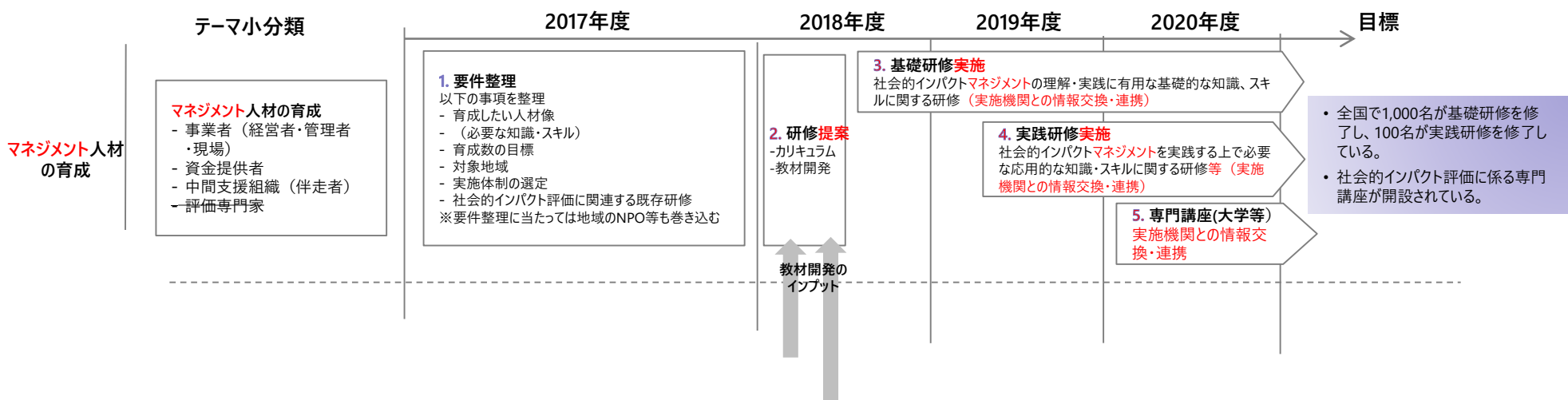
提供団体		企画立案、 評価設計	実施・モニタリン グ、データ収集	インパクト評価、統 計分析、報告	
日本評価学会	全般	●	●	●	対象別
日本NPOセンター	中間支 援組織	●	●	●	
日本社会事業大学（大学院）	福祉 学位	●	●	●	
参加型評価センター		●	参加型 評価	●	手法別
FASID		●		●	
PCM Tokyo		●	PCM	●	
SROI ネットワークジャパン		●	SROI	●	
公共経営・社会戦略研究所		●		●	
CSOネットワーク		●	DE	●	
ファンドレックス		●			
日本ファンドレイジング協会		●			
ToCJ		●	ロジックモデル、 ToC		
市民フォーラム21・NPOセンター		●	ツール		
JICA				●	インパクト評価
国際開発センター				●	

4. 人材育成にかかるロードマップの変更案

変更前



変更後（案）



5. 人材育成WGのメンバー

メンバー

No.	氏名	所属
1	安部 浩	株式会社 山下工芸
2	今田克次 千葉直紀	一般財団法人CSOネットワーク
3	加藤剛 ◎	公益財団法人トヨタ財団
4	五井渕 利明 ◎	特定非営利活動法人CRファクトリー
5	田中博	一般社団法人参加型評価センター
6	津富宏	静岡県立大学
7	土岐三輪	特定非営利活動法人SVP東京
8	中島悠生	SROIネットワークジャパン
9	原木 英一	一般財団法人 国際開発機構 (FASID)
10	藤枝香織	(一社) ソーシャルコーディネートかながわ
11	源由理子	明治大学
12	毛利 伸也	一般社団法人コ・イノベーション研究所

◎ WG共同リーダー

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 事例蓄積・活用WG

2018年6月27日

1. 現状共有
 2. 課題と対応策
 3. 今年度の進め方
 4. みなさんへのお願い
- その他参考資料

1. 現状共有

- 2017年度目標はアウトプットレベルで達成
- インパクト原則を踏まえて事例を再度整理し、実働のための予算・人員の配分検討が必要

- 活用のための論点は整理済み
- Web更改は予算の問題でPending
- 現状のWebサイトへの掲載は、インパクト原則確認後掲載予定

2017年度目標

「社会的インパクト評価100事例が公開され、活用できる状態」

- 116事例で、数はクリア
- 何を「社会的インパクト評価」の事例とするかは、不明瞭⇒インパクト原則の確認

- 公開する要件は整理済み
- Web更改は予算の問題でPending
- 現状のWebサイトへの掲載は、インパクト原則確認後掲載予定

1. 現状共有

- スプレッドシートに事例の蓄積をし、既存事例と合わせて**116件**（2018年5月現在）

事例の
洗い出し

• Webにある既存の事例 :	17件
• スプレッドシートに記入済みの事例 :	89件
• その他記入待ち :	10件
<hr/>	
• 合計 :	116件

事例の 公開情報	• 報告書等が公開されている案件 :	20件
	• ロジックモデルのみの案件 :	69件
	• その他確認中の案件 :	27件
<hr/>		
事例の 組織情報	• 非営利組織 :	85件
	• 営利組織 :	19件
	• 行政機関 :	6件
	• その他 :	5件

2. 課題と対応策

- 事例の公開要件の整理は実施済み
- 志向原則、ガイドラインを踏まえた蓄積した事例の見直し、整理が必要
- 事例数を増やすには公開のインセンティブ設計が重要

課題

対応策（案）

Web更改

- Web更改の要件は、インパクト原則や、SIMI全体の方向性も踏まえて再整理する必要がある

- SIMI全体での整理の機会を設ける
- 今年半ばころまでには全体設計を決定する
- Webの仕様を相談できるプロボノを採用

公開の インセンティブ 設計

- プロボノで事務局が記入するのは限界がある
- 2020年度までに1,000件は実現可能か？

- 会員モデルを設ける（クックパッド方式？）
- アワード、ベストプラクティス制度
- 営利セクター巻き込みへの権威付け等

事例の質 確認・担保

- 公開する要件の整理はできているが、質の判断にはつながりづらい

- 収集した事例へのレビュー
- インパクト原則とのすり合わせ
- ピアレビュー制度
- 有識者の会の設計

3. 今年度の進め方

- 今年度は事例収集に手を動かすのではなく、事例収集が自発的に行われるような仕組みづくりと、そのために必要な設計に関する案を作成する

事例の量と質の向上

公開
インセンティブの発表
⇒事例蓄積の加速

- 会員モデルを設ける、アワード、ベストプラクティス制度の検討
- 営利セクター巻き込みへの権威付け等

質確認・担保
の手法の設計

- アワードによる審査
- インパクト原則とのすり合わせ
- ピアレビュー制度、有識者の会の設計の検討

活用のための設計

Web更改の
実現可能性の整理

- 事例蓄積部分についてのアイデア出し
- SIMI全体での整理の機会を設ける
- 今年半ばころまでには全体設計を決定する
- Webの仕様を相談できるプロボノを採用

事例蓄積と活用を支えるための基盤構築

SIMI全体での
会員モデル等、必要な
ビジネスモデル設計

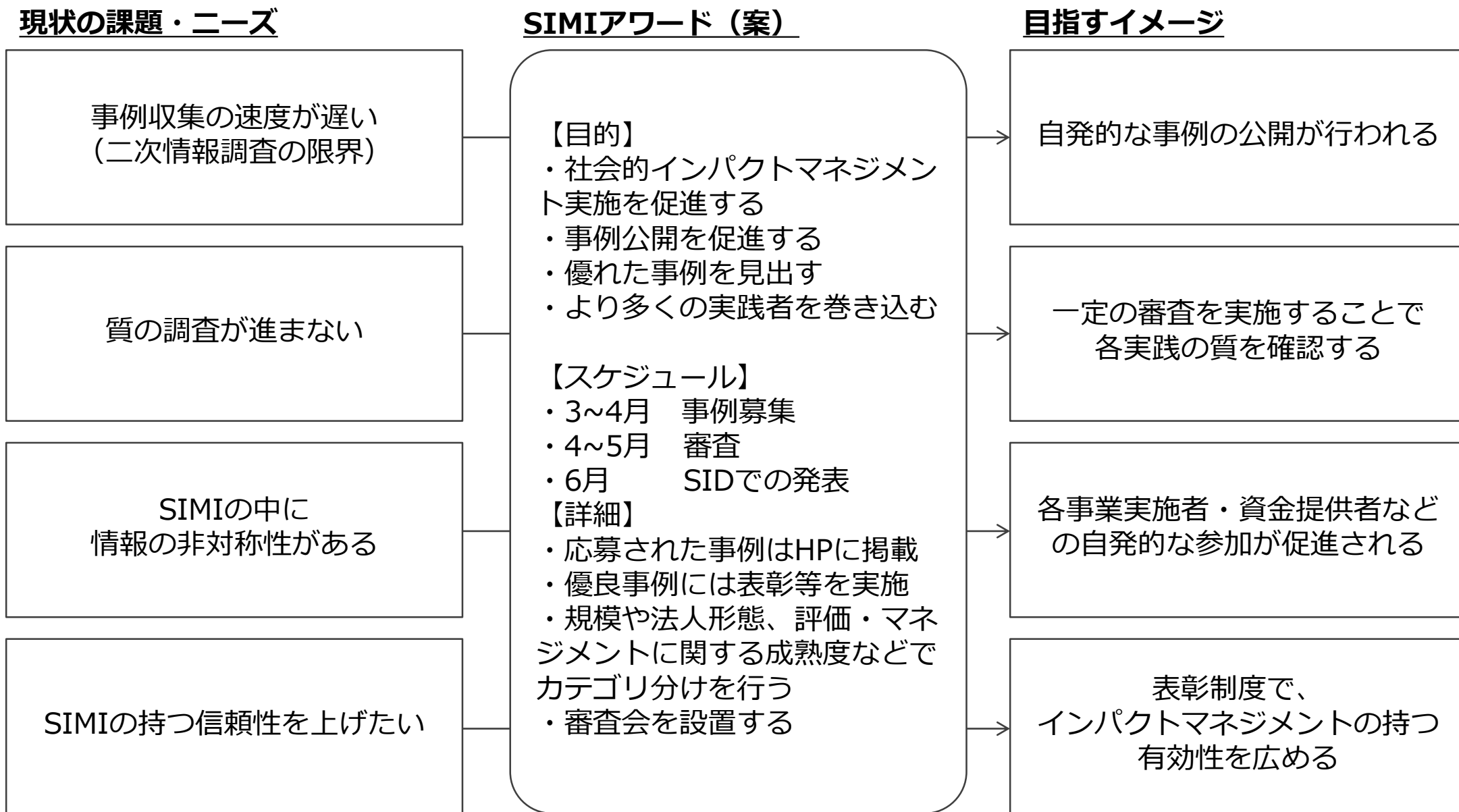
- プロボノで実現しづらい部分に関する費用試算
- 会員数・会員費に関する見積もり
- 会員モデルのメリット・デメリット整理

主にWGで
検討すること

SIMI全体で
検討すること

3. 今年度の進め方～SIMIアワードについて～

- 具体的には、SIMIでアワードを設定し、来年度のSIDで受賞発表を行う



3. 今年度の進め方～SIMIアワードについて～

- SIMIアワード実施において今年度検討すべき項目は、下記の通り

スケジュール

- 募集時期、審査期間、発表時期などを検討
(現状案は、3～4月：事例募集、4～5月：審査、6月：SIDでの発表)

応募要件・
カテゴリ整理

- より多くの事業実践者・資金提供者が参加するためのカテゴリ整理
- 社会的インパクトマネジメントの段階ごとの整理など

審査基準・体制

- 審査基準、審査員等の体制の整理

インセンティブ設計

- 表彰以外の副賞の検討
- より多くの応募が集まるための特典の設計（伴走支援、評価研修への参加など）

4. みなさんへのお願い

- SIMIメンバーのみなさままでご意見のある方がいらっしゃれば、ぜひご連絡ください
(info@impactmeasurement.jp)

Webサイト更改に
関するご意見

- 掲載してほしい情報
- Webの使いやすさに関するご意見

SIMIアワードの特典に
関するご意見

- 特典に対するアイデアの募集

事例の共有

- 社会的インパクト評価、社会的インパクトマネジメント（に近い）事例の共有

(参考資料) 事例蓄積の分類・公開要件 (1/2)

- 下記の分類項目を想定している。実施団体の公開レベルに応じてWebサイトに掲載する

Web検索時の
イメージ

文化芸術	非営利組織	地域	評価主体
<input checked="" type="checkbox"/> セオリーの有無	<input type="checkbox"/> 指標の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 測定結果有無	<input type="checkbox"/> 報告書の有無

分類項目		Web検索機能に 必要なもの		検索機能種類	Web掲載情報として 必要なもの		データベース構築に 必要なもの	WGが手持ちで 必要なもの	手持ち資料 としての記入例	
対象事業	分野	✓		ソート	✓		✓	✓	社会教育	
	地域 (エリア)	✓		ソート	✓		✓	✓	地域	
	事業名				✓		✓	✓	X X X	
	組織形態	✓		ソート	✓		✓	✓	組織形態	
	事業実施者名				✓		✓	✓	X X X	
	評価実施方法	評価主体	✓		ソート			✓	✓	評価主体
		評価実施者				✓		✓	✓	X X X
		評価の資金の出し手							✓	X x 財団
		評価の予算							✓	xx万円、x%など
	評価結果としての 公開情報	公開年月				✓		✓	✓	x x 年 x x 月
実施目的								✓	説明責任	
セオリー		✓		チェック式	公開の有無		✓	✓	ロジックモデル	
具体的な指標		✓		チェック式	公開の有無		✓	✓	X X X	
指標設定の方法								✓	ツールキット	
指標の測定手法								✓	前後比較	
指標測定結果		✓		チェック式	公開の有無		✓	✓	有	
報告書の有無		✓		チェック式	公開の有無		✓	✓	有	
その他情報	使用用途・活用有無							✓	有・事業改善	
	リンク				✓		✓	✓		

(参考資料) 事例蓄積の分類・公開要件 (2/2)

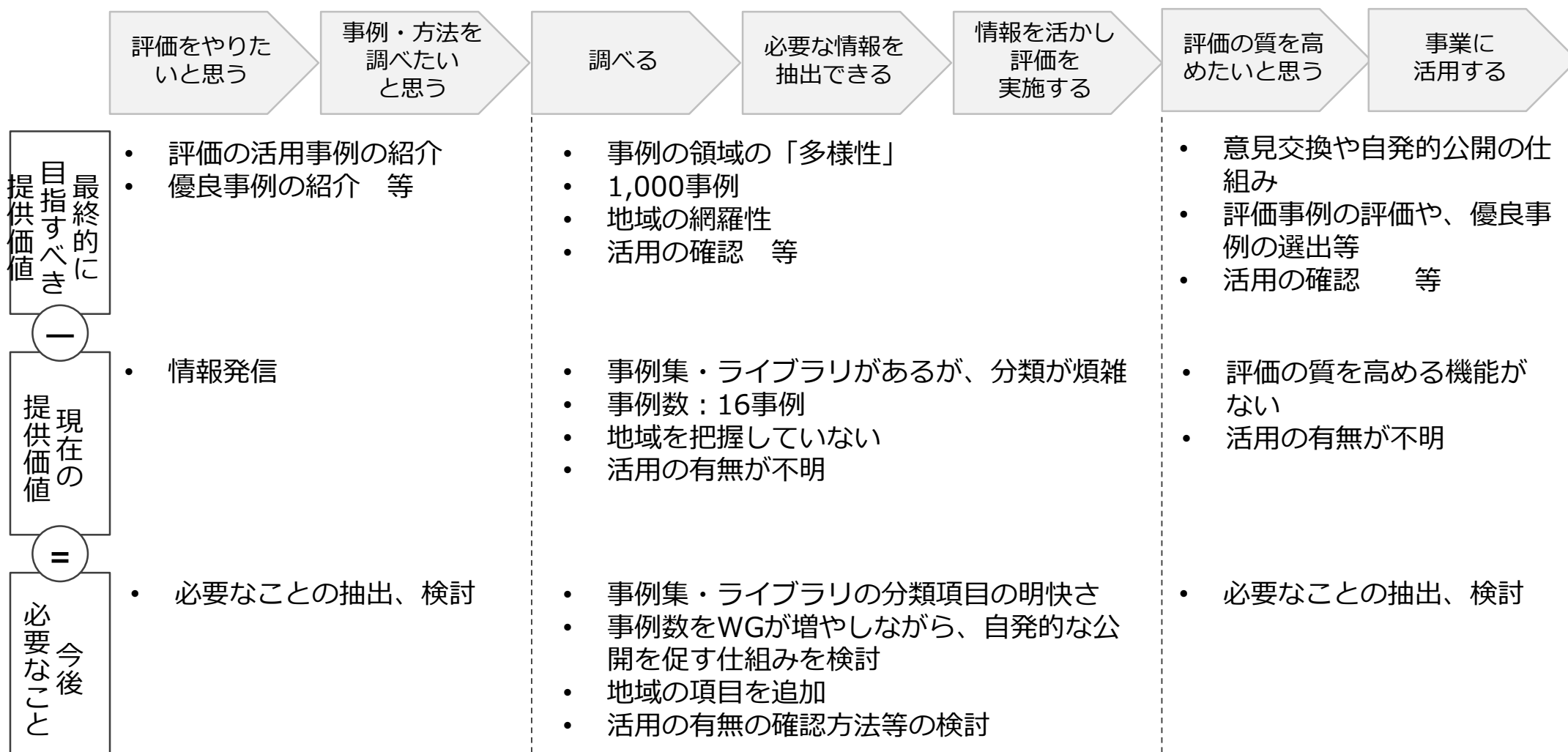
- 各項目の内訳は下記の通り

分類項目		DB記入方法	詳細内容
		分野	選択式 (内閣府20分野?)
対象事業	地域 (エリア)	選択式 (8地方区分)	北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州
	事業名	自由記述	—
	組織形態	選択式	行政機関、営利組織、非営利組織
	事業実施者名	自由記述	—
	評価主体	自由記述	—
評価実施方法	評価実施者	自由記述	—
	評価の資金の出し手	自由記述	—
	評価の予算	自由記述	—
	公開年月	自由記述	—
評価結果としての 公開情報	実施目的	選択式	説明責任、組織強化・事業改善、広報、その他
	セオリー	選択式	ロジックモデル、セオリーオブチェンジ、その他
	具体的な指標	選択式 (有無)	あり、なし
	指標設定の方法	選択式	ツールセット参照、その他
	指標の測定手法	自由記述	—
	指標測定結果	選択式 (有無)	あり、なし
	報告書の有無	選択式 (有無)	あり、なし (評価報告書以外の評価結果が含まれる公開書類も含む)
	使用用途・活用有無	選択式	説明責任、組織強化・事業改善、広報、その他
	その他情報	リンク	—

(参考資料) Webサイト更改が必要な理由

- 「多様な社会的インパクト評価事例があらゆる地域で1000事例蓄積され、活用されている」状態を目指すためには、「活用」のためのツールとなる使いやすいWebサイトが必須

評価実施・活用に関する行動とWebサイトの提供価値の関係



SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

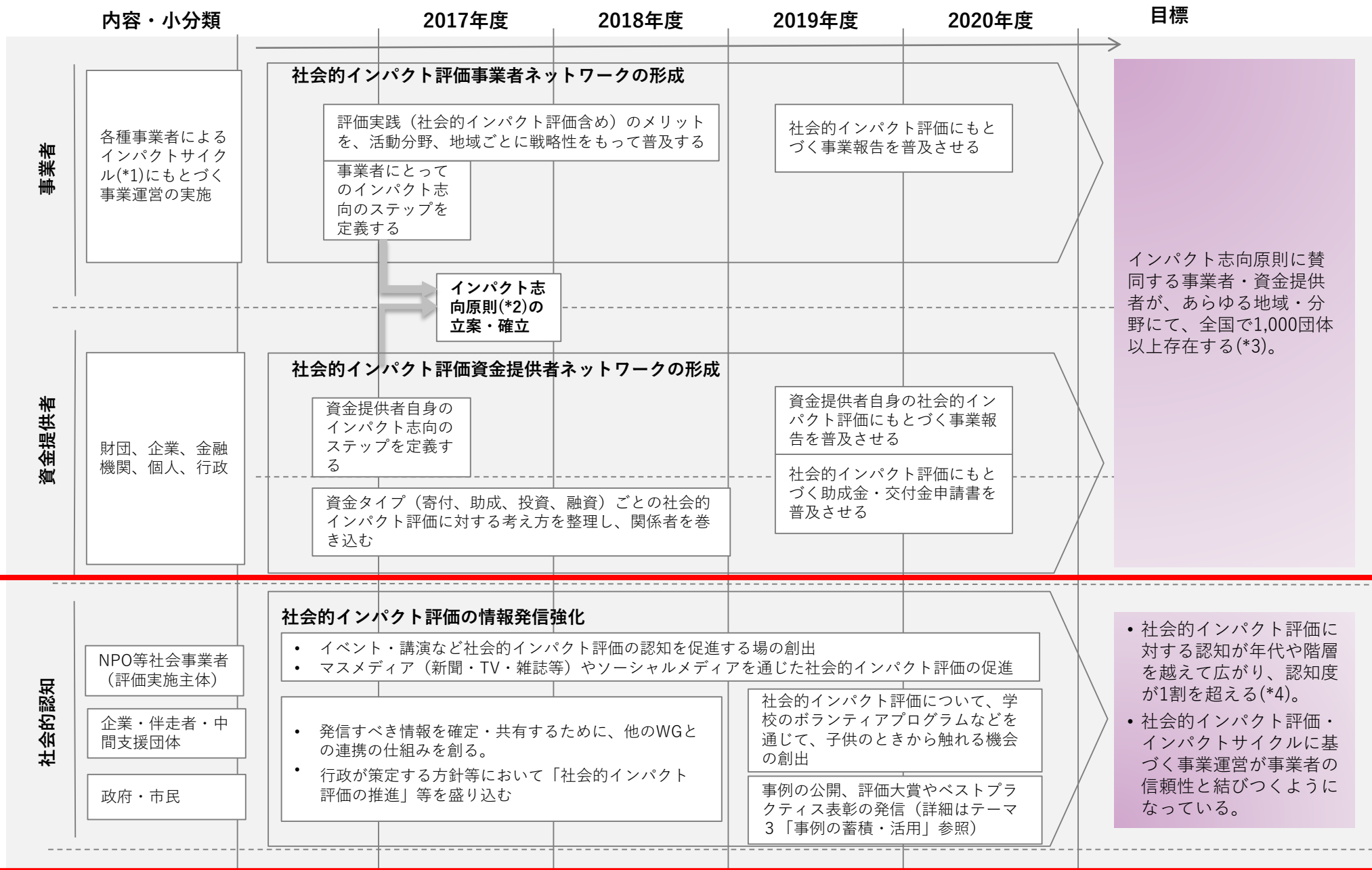
Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 社会的認知WG

2018年6月12日



*1「インパクトサイクル」：計画-実行-測定-レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなど
の便益が生み出される事業運営。

*2「インパクト志向原則」：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

*3：例えば、ホームページ上での賛同を募り、その団体数により目標を達成したかを計ることができる

*4：例えば、認知度調査等において社会的インパクト評価の認知について尋ねる項目を設けることにより、認知度の程度を計ることができる。

目指すこと

日本における「社会的インパクトを求める」空気感の醸成

やること

1. 社会的インパクト評価を活用するメリットの可視化

- 社会事業者・資金提供者・中間支援組織とWGが協働して、現場のメリットを可視化（業務改善、多様なステイクホルダーとの共通言語など）
- 他のWGと連携して、可視化したメリットを、認知促進に役立つ伝わりやすいメッセージに落とし込む

2. イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出

- NPO等社会事業者向け
（例）資金提供者の開催するNPO向けイベントでの講演
- 企業向け
（例）CSRシンポジウム等での講演・ブース出展、経済団体イベントでの講演

3. マスメディアやソーシャルメディアを通じた発信

- 取材獲得、関連雑誌での特集、イニシアチブFBでの発信など

2017年度 活動報告

- 1. 社会的インパクト評価を活用するメリットの可視化**
 - 社会的認知WGに、社会的インパクト志向原則WGメンバーに参加いただき、新たな枠組み（志向原則・基本原則・ガイドライン）をについて、社会事業者・資金提供者・中間支援組織が、それらを活用するメリットは何かを議論
- 2. イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出**
 - NPO等社会事業者向け
 - 企業向け
株式会社オルタナ主催「CSRフェス2017」にブース出展（7月24日）
- 3. マスメディアやソーシャルメディアを通じた発信**
 - 対外的にタイムリーに情報発信するための、他のWGとの連携体制・情報共有体制の構築

2018年度 活動目標

- 1. 社会的インパクト評価を活用するメリットの可視化**
 - 他のWGと連携して、可視化したメリットを、認知促進に役立つ伝わりやすいメッセージに落とし込む
- 2. イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出**
- 3. マスメディアやソーシャルメディアを通じた発信**
 - 事業者・資金提供者（企業CSR等）の発信活動を支援することで、これから社会事業に取り組む層や、一般の人の認知を高める（同心円型認知）